

## 【解説】建築物の構造関係技術基準解説書2025年版

建築物の構造関係技術基準解説書 2025年版の説明会（2025.4.1～）で示された今回の改定の主なポイントを紹介します。  
注）今般の本書の改定と告示等の改定時期は異なります。

改定事項	内容
木造建築物等の構造計算の改定	許容応力度等計算等による構造計算の確認が4階建以上または高さ16m超へ変更。 構造計算が必要な規模が延べ面積300㎡超へ引き下げ。 必要壁量を各階に生じる地震力からの算出へ変更。
鉄骨造のルート1-3新設	高さ13m超または軒高9m超で高さ16m以下に適用できるルート1-3が新設。 ( $Co \geq 0.3$ 、層間変形角 $1/120$ までの緩和規定は不可（層間変形角の確認は $Co=0.2$ で可）等の条件があり。)
鉄骨造（階数3以下等）の中ボルトの使用範囲の緩和	令6国交告第955号が新設され、鉄骨造（階数3以下等）においてボルト穴のずれの影響を層間変位で評価。条件を満足すれば中ボルトの使用が可能。付録1-2に層間変形角の計算例が記載。
低炭素コンクリート、海外鋼材、プレキャストコンクリートについて解説の追記	JIS A 5308に合致した低炭素コンクリートの鉄筋コンクリート造の基規準への適合確認、海外規格品の鋼材の規格品証明書による確認、設計基準強度が高いPCa製品の第三者機関による証明の必要性について追記。 <a href="#">参考：GBRCではプレキャストコンクリート生産技術性能証明の業務を行っています。</a>
平成12建告第1446号第3（材料告示）のただし書きの追記	特別の調査又は研究の結果に基づき告示に示す技術的基準に適合するものと同様以上である場合も認定材と認められたが、どのような材料でも認められるわけではなく、指定建築材料のいずれかに該当するものとし、品質確保がされている必要がある。
杭基礎の設計用せん断力の割増	下部構造の耐震設計ルートで二次設計の要求はないが、脆性的な破壊を避ける措置として杭材の曲げ降伏時応力、または設計用せん断力を1.5倍以上に割増した応力について検討する旨が追記。
鉄筋コンクリート造の柱のせん断ひび割れ強度の耐力係数の変更	付録1-3で示している柱のせん断ひび割れ強度算定式の耐力係数 $\phi$ を0.51から0.58へ変更。
鉄筋コンクリート造の柱はり接合部	柱はり接合部の終局強度の算定においては、準拠する各種指針への適合及び柱と柱はり接合部の強度バランスに配慮する旨が明記。バランスを欠く場合の検討方法の参考文献「鉄筋コンクリート造建物の等価線形化法に基づく耐震性能評価型設計指針・同解説 2023.11」
既存不適格建築物における法37条の扱いの記載箇所の移動	既存不適格建築物の増築等において、増築等をする部分以外については法第37条の規定は対象外である旨の記載を平12建告1446号（材料告示）から法第86条の7（既存不適格緩和）へ移動。

## 【イベント】2025年度GBRC建築技術セミナー開催

大阪会場はご来場の方が**体験出来るイベント**を企画しておりますので、是非皆様（特に**若手、学生の方歓迎**）ご参加お願いいたします。  
申し込み受付は6月頃を予定しています。

**参加費無料**

**<大阪会場> 2025年8月22日（金）12:00～17:00**  
**場所：マイドーム大阪**

【テーマ】

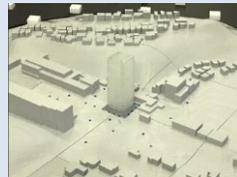
**「GBRC EXPO」～見て、聞いて、さわって、建築技術～**

【特別講演（予定）】

- ・（仮）脱炭素社会の実現に向けた住宅・建築物分野の政策動向（国交省）
- ・（仮）脱炭素の取り組み及び高層純木造耐火建築物（大林組）

【体験ブース】

- ・ VR による避難体験
- ・ 3Dプリンターの実演
- ・ 振動椅子による地震体験
- ・ 告示仕様の特定天井の耐震体験
- ・ GBRC所有1970年、2025年万博関連資料の展示
- ・ GBRC耐震耐久性調査室による3Dスキャナーデモ
- ・ GBRC耐風試験室による耐風試験展示
- ・ GBRC試験室の各種試験破壊音のASMR体験



耐風試験の展示



VRによる避難体験



3Dプリンターの実演

**<東京会場> 2025年10月17日（金）12:30～17:00**  
**場所：一橋大学 一橋講堂**

【テーマ】

**「GBRC EXPO 2025」～建築のイマとミライ～**

【特別講演】

大阪会場と同様

## 【トピックス】免震材料の経年変化

<概要>

一般社団法人 日本免震構造協会から積層ゴム系免震材料の経年変化確認のためにメーカーが工場に置いている試験体等において経年変化率が大臣認定書で定められた基準値を超える事例の報告がありました。酸化劣化の影響と推定され、**経年変化率は最大20%程度となる可能性**があることが判明しています。

<影響>

積層ゴムが硬化して水平剛性が高くなることで、免震層の変形が小さくなり、建築物の変形が増大します。日本免震構造協会でもデル建物で水平剛性が+20%となった場合でも、応答変位の変動はわずかであり、以下の通り確認されています。

	項目	クライテリア	経年変化率 +10%	経年変化率 +20%
9階建の検討	免震層変位	40.0	27.7	27.3
	層間変形角	1/200	1/6033	1/5766
18階建の検討	免震層変位	40.0	19.8	19.4
	層間変形角	1/200	1/225	1/223

また、法第37条第二号の大臣認定取り扱いについては、直ちに大臣認定不適合とは扱わない旨の見解を国交省から得ています。

<設計者の方へのお願い事項>

免震建物で採用する積層ゴムの経年変化率は余裕をもって設定していただくようお願いいたします。

## 【認定情報】 審査期間

● 認定審査期間の実績(2025.1月～3月) (性能評価期間は含みません)

	標準期間※1	実績
新規	2ヶ月	42～146日※3
新規 (特定天井あり※2)	2.5ヶ月	-
計画変更	1.5ヶ月	55日※4
計画変更 (特定天井あり※2)	2ヶ月	35～51日
軽微な変更	1.0ヶ月	19～59※3日
軽微な変更 (特定天井あり※2)	1.5ヶ月	-

- ※1 標準期間は認定申請～認定書交付までの標準日数を表しています。
- ※2 特定天井がある場合は「通常の審査期間 + 0.5ヶ月」を目安としてください。
- ※3 避難と合わせての申請案件のため審査時間を要しています。
- ※4 国交省担当官の不在期間があったため審査時間を要しています。

### 【編集後記】

先日委員会の一環で万博見学に行ってきました。大屋根リングの上を歩くのはとても気持ち良く、見晴らしも良く圧巻でした。個人的には落合館とイタリア館に訪問して、お土産(ただお土産店もすごい行列でした。)も買いたと思います。ただ、ミヤクミヤクのあのフォルムにはまだ慣れません… (T)

## 【お知らせ】 大臣認定図書(別添)へ大臣認定番号印字

2月3日から国交省の大臣認定オンライン申請システムが変更され、別添の右上に大臣認定番号が印字されるようになりました。大臣認定図書のデータ返却は大臣認定番号が印字されたものを返却しております。

大臣認定番号が記載されます

1. 建築物概要及び構造概要(超高層建築物用)

別添(超高層建築物の構造方法1)

性能評価番号	GBRC 建評-●-●-●	性能評価年月日	令和 年 月 日
--------	---------------	---------	----------

※別添構造図の右上にも大臣認定番号が記載されます

## 【お知らせ】 建築確認評価センター 組織変更

2025年4月1日から建築確認評価センターと構造判定センターが統合し、部署名が変更になりました。

旧：建築確認評価センター 建築確認評価部 性能評価課  
 新：評価判定センター 確認評価部 性能評価課

なお、代表電話番号、メールアドレスの変更はありません。



発行者：一般財団法人 日本建築総合試験所  
 評価判定センター 性能評価課  
 担当：甲谷、鳥谷、勝間  
 TEL：070(7811)0607 FAX：06(6966)7680  
 E-mail：seinou@gbrc.or.jp